

教育委員会会議録

平成28年6月2日(木) 午前11時00分 開会

午前11時38分 閉会

1 議事日程

別紙のとおり

2 出席した委員等

平松直巳教育長、佐藤元英委員、岩月慎自委員、松本真理子委員、則竹伸也委員
廣美里委員

3 説明のため出席した職員

岡田信事務局長、後藤由紀夫次長兼管理部長、荻原哲哉学習教育部長
永井勇一生涯学習スポーツ監、山本雅夫総務課長、橋本礼子教育企画課長
山崎穂高財務施設課長、横井英行教職員課長、山崎眞澄福利課長
冨田正美生涯学習課長、柴田悦己高等学校教育課長、柵木智幸義務教育課長
吉田伸一特別支援教育課長、霊池恵量保健体育スポーツ課長
野村均文化財保護室長、黒沢正行健康学習室長、小林整次教職員課主幹
鈴木俊二教職員課主幹、伊藤尚巳高等学校教育課主幹、浅野薫史義務教育課主幹
稲垣宏恭教育企画課課長補佐

4 前回会議録の承認

平松教育長が各委員に諮り、前回の会議録は承認された。

5 教育長報告

(1) 報告事項1 平成29年度愛知県公立学校教員採用選考試験の志願状況について

横井教職員課長が、平成29年度愛知県公立学校教員採用選考試験の志願状況について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

[委員の主な意見及び事務局の説明]

(松本委員)

特別選考に、採用予定者数とは別の枠があるのか。

(横井教職員課長)

特別な枠があるわけではない。特別選考で志願すると、1次試験が免除となるなどの特例がある。

(佐藤委員)

なぜ、元教諭・講師経験者特別選考のみ人数が増えているのか。毎年受からない人がいるのか。

(横井教職員課長)

これまで選考試験に合格できなかった受験者で、講師をしながら、再度合格を目指す方が増えたものと考えている。

(廣委員)

新卒の合格者は何名いるのか。

(横井教職員課長)

23歳の受験者数を新卒とすると、平成27年度は、採用予定者数の小学校教諭700名のうち284名、中学校教諭330名のうち140名、高等学校教諭は、330名のうち65名、特別支援学校教諭120名のうちの13名である。

(松本委員)

選考試験で教員の不祥事に対する対策は行ったのか。

(横井教職員課長)

昨年、教員の不祥事防止対策プロジェクトチーム会議の場で、採用試験時に見極めができないか協議していただいたところであるが、本県は1次試験、2次試験で併せて3回の面接を行い、人物重視の試験を実施しているところであり、今年は、面接において質問を掘り下げていくような工夫をしていきたい。

(2) 報告事項2 愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成28年度第1回）について

柴田高等学校教育課長が、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成28年度第1回）について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

[委員の主な意見及び事務局の説明]

(松本委員)

愛知県においては、日本語指導が必要な外国人児童生徒への支援が大きな課題であり、文部科学省が平成26年に実施した「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」によると、本県の中学校における日本語指導が必要な外国人生徒は約1800名であるが、高校生は211名である。中学生と比べて高校生が極端に少ないが、どういうことか。

(柴田高等学校教育課長)

平成26年度の名古屋市を除く県内公立中学3年生についての数字で説明させていただく。その中で日本語指導が必要な外国人生徒数は449名おり、そのうち、12月の進路希望調査の時点で高校進学を希望していない者が約25%、実際に高校に進学しなかった生徒は約30%であった。従って、中学校の時点で日本語指導が必要な生徒のうちの約7割、314名が高校に進学している。

中学から高校に進学した時点で、日本語指導が必要な生徒であるかどうかは高校が判断することとなる。また、これまでの日本語による学習により習熟度が高まる面もある。これらのことから、数字に差が生じていると思われる。

る。

(松本委員)

中学校における外国人生徒は、6割から7割程度の高校進学率であり、日本人生徒よりも大分低い。定時制課程等で外国人生徒への配慮が課題である。

(柴田高等学校教育課長)

今回、外国人生徒に対し、どのような点で配慮をするべきかを会議に諮問し、専門員会に付託した。なお、外国人生徒への配慮の一方で、日本人生徒との公平性を担保する必要があるとの意見も出されており、併せて専門員会に議論を付託することとなった。

(佐藤委員)

学校に在籍していないと教育委員会の施策の対象にならない。学校に入ることのできない子どもたちを、どうしていくかを、考えていかななくては行けない。

(橋本教育企画課長)

外国人の子どもたちは、高校に進学しない場合が多くみられる。そういった子どもたちに対する施策を、県民生活部等と協力して検討していきたい。

(岩月委員)

当該会議において、事務局側から外国人選抜に特化した説明がされているのか。また、どんな意見が出たか。

(柴田高等学校教育課長)

日本語指導が必要な外国人生徒の高校進学希望者数と実際の進学者数に約7%の差があることを説明し、特に、定時制課程の入学者選抜への配慮について問題提起した。

委員からは、外国人生徒への配慮が必要であり、例えば、問題にルビを振る、試験時間を延ばす等の意見も出された。

(岩月委員)

外国人の子どもの義務教育後の教育をどうするのかについて、考えていく必要がある。漠然としたものではなく具体的な方向性が出るように検討してほしい。

(3) 報告事項3 平成28年度愛知県生徒指導推進協議会の協議題の変更について

柵木義務教育課長が、平成28年度愛知県生徒指導推進協議会の協議題の変更について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

[委員の主な意見及び事務局の説明]

(岩月委員)

当初、協議題を選定するにあたり、未然防止の他にどのような対策を検討していたか。今回、未然防止等の「等」を外すことによって議論の範囲が狭くなるようなことはないのか。

(柵木義務教育課長)

本協議題は、平成27、28年度の2年間の協議題として設定したものであるが、平成27年度は、未然防止以外の早期対応なども含めて協議を行った。しかし、国の調査では不登校は問題行動に含めていないことや、外部から同様の指摘もあったこと、また、生徒指導推進協議会において、問題が起きてから対応するのではなく、問題を未然に防ぐことがより大切であることから、未然防止に絞って協議すべきではないかといった意見があったことなどを踏まえ、今回変更するに至ったものであり、議論の幅が狭くなることはないと考えている。

6 議題

なし

7 その他

なし

8 特記事項

- (1) 平松教育長が今回の会議録署名人として松本委員を指名した。
- (2) 傍聴人 4名